



69. ウマヅラハギ *Thamnaconus modestus* (Günther) 図版28

英名 filefish, black scraper

露名 チヨルヌイ スビノログ  
чёрный спинорог

地方名(北海道) チュンチュン、カワハギ、チン

漢字 うまづらはぎ  
馬面剝

**【形態】** 体はひし形に近い楕円形で、強く側扁\*する。頭部背面を横から見ると、雌ではほぼ直線状であるが、雄ではやや膨らむ。唇は肉質で薄く、歯は門歯\*状。英名のfilefish(やすり魚)は絨毛状のうろこが全身を覆うことに由来する。側線\*はない。背びれの第1棘条\*は細長く、眼の後半部上方にある。体は灰青色で、成魚\*には明瞭な斑紋はないが、幼魚\*は不規則な雲形の暗色斑を持つ。雌は雄に比べて体色の青みが強い。体長\*30cmくらいになる。近縁種のカワハギ*Stephanolepis cirrifer*は腹びれの棘\*の先端が動かせるので区別できる。

**【生態】** 北海道以南の日本各地、東シナ海、南シナ海、南アフリカなどの沿岸域に広く分布する。昼間は中層を、夜間は底層を群れをつくって泳ぐ。

雌雄ともに体長約16cmで性成熟\*する。成長の良いものは1歳から産卵に加わり、2歳ではほとんどのものが産卵する。産卵期は5～7月。産卵は外洋水の影響

がある岩礁<sup>がんしょう</sup>域で行われ、瀬戸内海では内湾のガラモ場\*が産卵場となる。産卵は1日1回、主に夕刻から早朝に行われ、1回ごとの産卵数\*は9,000~24万粒。水槽内では約1カ月間、19回にわたって計130万粒を産み出した記録がある。求愛行動中は雌雄ともに体色が鮮やかな青色になるが、放卵・放精後、急速に不鮮明になる。産卵後は水深30~70mの深みへ移動するという。

卵は球形で、直径0.57~0.72mm。粘着力の弱い付着沈性卵\*で、卵黄は無色透明。水温24~25°Cで受精後40~50時間でふ化する。ふ化仔魚<sup>しぎよ</sup>\*は全長\*1.3~2.3mm。全長5mmより小さい仔魚は表層まで浮上せず、深度10~75mの中層に分布する。全長5mmから11cmくらいまでの仔稚魚\*は、流れ藻\*に付随して生活する。生まれた年の成長が良く、瀬戸内海のものでは生後5カ月に体長15cmに達し、満1歳で18cm、2歳で22cm、3歳で25~26cmになる。

主な餌はカイアシ類\*で、珪藻<sup>けいそう</sup>\*類やオキアミ類\*のほか、ヒドロ虫類などの付着生物、ヨコエビ類\*、エビ類などの底生生物も餌とする。